

## 富山・辻遺跡



(魚津)

- 1 所在地 富山県中新川郡立山町辻字西吉原
- 2 調査期間 一九八六年（昭61）四月～六月
- 3 発掘機関 立山町教育委員会
- 4 調査担当者 池野正男・森秀典・北川美佐子
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期～古墳時代前期、奈良～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- 辻遺跡は、立山町北部の常願寺川扇状地扇端部の湧水地帯に位置し、周囲は柄津川の小支谷により開析された標高二一～二四mの微高地となってい。遺跡は、一九五六年に水田整地時に発見され、一九七八年の県営は場整備事業の予備調査でも弥生～平安時代の遺物が多く出土した。同地に対し、民間企業の工場移転が申請されたため、一九八六年に発掘調査を実施した。
- 8 木簡の积文・内容
- (1) 「大般若□經□」 (247) × 14 × 5
- (2) 「大般□心經」 (246) × 15 × 3
- (3) 「大□」 249 × 18 × 3
- (4) 「大般若心經」 245 × 18 × 2
- (5) 「大□□心□□」 (243) × 16 × 2
- (6) 「大般若心□」 (247) × 18 × 5
- (7) 「大般若心經」 (180) × 16 × 6
- (8) 「大般若心經」 (107) × 16 × 2

(9) 「せん。(穿孔)さい」

103×29×8 61

木簡の名称、及び関係参考資料については、水野正好先生から御教示を得た。

## 9

## 関係文献

立山町教育委員会『辻遺跡・浦田遺跡発掘調査概要』（一九八七年）  
(北川美佐子)

(1)～(8)は、頭部を圭頭に削り出し、両側端に二対の切り込みを入れ、下端を尖らせた卒塔婆である。墨書は全て「大般若心經」又は「大般若心經□」と考えられる。これらの卒塔婆の使用法として考えられる参考資料として、『修驗深秘行法符咒集』十巻の中の一巻に項二「七」として

「般若心經の大事

玄奘三藏、大聖文殊に授く。

梵箋印。初め摩訶より咒曰に迨ぶ時、外古印を結ぶ。

ギヤティギヤティ、ハラギヤティ、ハラソギヤティボデイソワ

カ 身地帝王、立ち処に身を失ひ畢る。其の時、八度の大般若渡し畢る。」

という記事がある。即ち、惡鬼王である身地帝王を退けるために般若心經を八度読むという行法があるという内容で、当遺跡出土の卒塔婆も、一度般若心經を真読することに一本の卒塔婆をたて、八度で八本の卒塔婆を使用した可能性が考えられる。八本の卒塔婆を立て、人形、刀形、陽物などもあわせ、惡鬼調伏の祓いの儀式が行われ、終了後に、溝に祓い流されたものと考えられる。

(9)は、組合せ糸巻きの横木の一枚に墨書されたもので、他に糸巻きの棒木も一本出土している。

